

浜の活力再生プラン

令和 7 ～ 1 1 年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	日出地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 中山 公夫（大分県漁業協同組合 日出地区運営委員長）

再生委員会の構成員	大分県漁業協同組合、日出町（農林水産課）、 大分県東部振興局（農山漁村振興部）
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	【地域の範囲】日出（大分県漁業協同組合日出支店の地区） 底引き網漁業 小型底引き漁業 定置網漁業 建網漁業 5 経営体 1 2 経営体 9 経営体 3 0 経営体 （令和 6 年 4 月 1 日時点）
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

日出町は大分県の中央部にある別府湾を漁場とした漁船漁業が盛んな地域であり、海底湧水に育まれた「城下かれい」（マコガレイ）が有名である。漁業経営体は底引き網漁業 5 経営体、小型底引き網漁業 1 2 経営体、定置網漁業 9 経営体、建網漁業 3 0 経営体となっている。大分県漁業協同組合日出支店に所属する正組合員も、新型コロナウイルスの影響や高齢化が進んでいることから、5 6 経営体まで減少した。

令和 5 年における大神魚市場総取扱量は年間約 1 0 1 t（上記経営体）、日出水産株式会社で年間約 3 0 0 t となっており減少傾向にある。

また、近年の燃油高騰や資材費の値上がり、漁獲量の減少及び魚価の低迷によって漁家経営は厳しさを増している。さらに、地球温暖化の影響で魚種の変化が見られるようになった。

こうした状況のため漁業者の新規加入はごく稀であり、漁家子弟も漁業以外の職種に就くことが多くなっている。

漁協が運営する大神魚市場では魚価の向上のため、仲買人が競り落とした新鮮な魚介類を同市場内で販売する朝市をほぼ毎朝開催しており、地元住民はもちろん、町外や遠方からも人が訪れて賑わっている。近年では来場者数が市場セリ値に大きく影響するまでになっていることから、集客人数を増やすことが魚価向上に有効であり、魚食普及にも繋がる。

大分県漁協青年部日出支部は、町内外のイベント等に積極的に参加して鮮魚の販売、大神魚市場の PR 活動を行っている。また、魚のさばき方教室を実施して、市場で魚が購入しやすいように魚食普及の活動を実施している。

一方、資源の増大を図るため、ガザミなどの種苗放流やクルマエビの囲い網馴致放流に取り組んでいる。中でも町特産として振興を図ってきた「城下かれい」（マコガレイ）は、近年、資源の減少が特に危惧されているため、中間育成や稚魚の育成場となるアマモ場の造成等にも取り組んでいる。

(2) その他の関連する現状等

1) 日出町の概要
(1) 人口

- ・ 27, 897人（令和6年3月31日時点）

（2）産業

- ・ 令和2年国勢調査における産業別就業人口の構成は、第一次産業・農林水産業が732人で6.0%、第二次産業・建設業や製造業が2,966人で24.1%、第三次産業・その他の業種である小売業やサービス業などが8,593人で69.9%となっている。日本国内における産業別就業人口の割合がそれぞれ5.1%、25.9%、67.3%となっているので、概ね同程度の構成と言える。
- ・ 町内に立地している主要な企業としては、国内で最も有名な麦焼酎の一つである「大分むぎ焼酎二階堂」を製造している二階堂酒造有限会社や、電源オフで透明、オンで不透明になる「液晶調光フィルム」を製造している九州ナノテック光学株式会社などが挙げられる。この「液晶調光フィルム」は、TOYOTAのハリアーなど高級車のサンルーフなどに使用されている。

（3）観光

- ・ 平成28年12月16日、日出町と株式会社サンリオエンターテインメントは世界的にも認知度の高いハローキティをはじめとしたサンリオのキャラクターを活用し、観光客の誘客及び若い世代の定住促進など、日出町の活性化を目的とした連携事業に取り組む基本合意を締結した。その後、更なる事業の展開を図るため、ハローキティを「日出町タウンプロモーションプロジェクトリーダー」に任命し、株式会社サンリオとの契約により、ハローキティを活用したタウンプロモーション事業を進めている。また、サンリオと関係の深い町であることから、ハローキティとくらすまち ひじ」というキャッチフレーズで様々な取り組みを実施している。

3 活性化の取組方針

（1）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1) 漁業収入向上のための取組

(1) 朝市の活用

- ・市場活性化のため、魚のさばき方教室を実施して、魚食への関心、市場の集客に努める。また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。
- ・漁船クルージング等の遊漁船業に取り組み、5年間で50人の増加に努める。

(2) マコガレイ資源の増大

- ・種苗放流、アマモ場の保全・拡大などを継続して行い、稚魚の増加促進から努め、資源の増加を目指す。
- ・引き続き、10cm以上の大型種苗放流を実施することで、稚魚期のへい死率を減少させ、大型サイズのマコガレイが水揚げされるように努める。

(3) 水産資源の増殖

- ・漁協及び日出町が協力してクルマエビ25万尾、ガザミ5万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む。

(4) カキ養殖の取組

- ・温暖化による水温上昇の影響を確認しながら養殖方法を見直し、150kg以上の出荷を目標に取り組む。

2) 漁業コスト削減のための取組

- ・現状の船速よりも1ktの減速走行を行うことで、一人当たり約167Lの燃油消費量の削減に努める。

3) 漁村活性化のための取組

(1) 漁業人材の確保・育成

新規漁業者の確保、若手漁業者の育成を推進する。

(2) 市場感謝祭などの集客イベント

朝市や漁船クルージング等の取組に加え、大神魚市場感謝祭の開催、魚のさばき方教室の実施による魚食への関心向上と交流人口の増加に努める。

(3) 資源管理に係る取組

水産資源の増大 ・マコガレイの大型種苗生産については、県標準の5cm以上のサイズを目標に中間育成を行い、平均体長10cm以上のマコガレイ稚魚を生産・放流を行う。 ・町が造成したアマモ場3ヶ所に放流を行うとともに、水中カメラをアマモ場に設置して、マコガレイを含めた資源の観察を行う。 【資源管理方針】 1) マコガレイ 産卵期（12～1月）の3日間の休漁、12月の最終土曜日を除く毎週土曜日の休漁（小型底びき網）、毎月第2土曜日の休漁、1月1日から10月31日のうち、12日間以上の漁具撤去による休漁（定置網）、放流場所の周辺を一部禁漁（放流後8週間）、全長15cm以下の採捕禁止（海区委員会指示） 2) ガザミ 12月の最終土曜日を除く毎週土曜日の休漁（小型底びき網）、毎月第2土曜日の休漁、1月1日から10月31日のうち、12日間以上の漁具撤去による休漁（定置網）、抱卵個体の保護（再放流5～7月）、放流場所の周辺を一部禁漁（放流後2週間） 3) クルマエビ 12月の最終土曜日を除く毎週土曜日の休漁（小型底びき網）、毎月第2土曜日の休漁、産卵期（4～8月）の3日間の休漁、放流場所の周辺を一部禁漁（放流後4週間）、全長13cm以下の採捕禁止（海区委員会指示） 4) ナマコ 休漁期間の設定（11月）、漁法の制限（潜水によるナマコ漁の禁止等）、ナマコ漁業期間：11月1日から3月31日まで（共第16号第1種共同漁業権行使規則） 5) ハモ 毎月第2土曜日の休漁、産卵期に土曜日を含む連続3日間の休漁、体重300g未満の小型魚の再放流
--

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比） 7.2%

漁業収入向上のための取組	1) 朝市の活用 この浜の活力再生プランの実施主体である大分県漁業協同組合日出支店、日出町役場農林水産課及び大分県東部振興局水産班（以下「三者」という。）と関係業者は「ホテルと朝市を往復する漁船クルージング」、「町内観光施設と朝市を結ぶツアー」といったイベントを開催し、市場の集客を増やすとともに、クルージングやツアーを漁業者が行い、日当や傭船料を受領することにより、漁家所得の向上を図る。 ア) 料理教室 漁業者は小中学校保護者や一般人を対象にした料理教室を年5回実施するとともに、今後の回数増加について検討する。 イ) 加工品販売 漁業者は協力者を増やして月4回、魚介類の一次加工品を朝市で販売し、魚食普及とリピーターの確保を図るとともに、今後の回数増加について検討する。 また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。 ウ) サービス向上 漁業者は町と協力して、市場に出荷される旬の魚を町HPで定期的に紹介し、朝市のPRに努める。また、遊漁船業の案内を開始し、年間10人の増加に努める。 これらの取組により、朝市への集客を基準年比4人／日増加させる。 2) マコガレイ資源の増大 日出町だけでなく近隣の市町村や漁業者とも協力して、次の取組の規模
---------------------	--

	を拡大し、マコガレイの資源増大に取り組む。 ア) 大型種苗 種苗放流効果を高めるため10 c m以上を目標にマコガレイを町職員及び漁業者が日出町中間育成施設にて中間育成し、2,000尾の放流を行い、漁獲量の向上を図る。 イ) 生息環境の整備 公的支援事業を活用し、漁業者50名以上が日出町沖合のアマモ場2haの保全・拡大に努める。 ウ) 資源保護 漁業者は、大型種苗の放流に合わせた禁漁区・禁漁期間を定着させる。 また、漁業者が海岸の漂流・漂着物の処理を行い、地域資源の維持・回復を図る。 3) 水産資源の増殖 次の取組を行い、水産資源の増大を目指す。 ア) 種苗放流 漁協及び日出町が協力してクルマエビ25万尾、ガザミ5万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。 また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む。 イ) 生息環境の整備 漁業者は、日出町沿岸の漂流・漂着物処理を行い、環境維持に努める。 ウ) 資源保護 漁協は、ひじき等の藻類について根からの採取を控えるよう漁業者に周知し、資源の減少を防ぐ。 4) カキ養殖の取組 漁業者は、令和2年度より実施している養殖牡蠣の販売を継続して実施するとともに、安定したサイズで出荷が出来るように養殖方法の見直しを行う。
漁業コスト削減のための取組	漁業者は、減速操行や船底の定期清掃を徹底することで、燃油消費量を削減する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保・育成 漁業者及び漁協は、漁業就業支援フェアへの参加により新規漁業者の確保、若手漁業者の育成に取り組む。 (2) 市場感謝祭などの集客イベント 漁業者、仲買業者及び行政の三者協議を行い、市場感謝祭などの集客イベントを開催する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）8.5%

漁業収入向上のための取組	1) 朝市の活用 三者と関係業者は「ホテルと朝市を往復する漁船クルージング」、「町内観光施設と朝市を結ぶツアー」といったイベントを開催し、市場の集客を増やすとともに、クルージングやツアーを漁業者が行い、日当や傭船料を受領することにより、漁家所得の向上を図る。 ア) 料理教室 漁業者は小中学校保護者や一般人を対象にした料理教室を年5回実施す
--------------	--

	るとともに、朝市のPRも行うことで、集客の基準年比を8人／増加させる。 イ) 加工品販売 漁業者は協力者を増やして月5回、魚介類の一次加工品を朝市で販売し、魚食普及とリピーターの確保を図るとともに、今後の回数増加について検討する。 ウ) 遊漁船業の案内を開始し、年間20人の増加に努める。 また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。 2) マコガレイ資源の増大 日出町だけでなく近隣の市町村や漁業者とも協力して、次の取組の規模を拡大し、マコガレイの資源増大に取り組む。 ア) 大型種苗 種苗放流効果を高めるため10cm以上を目標にマコガレイを中間育成し、4,000尾の放流を行い、漁獲量の向上を図る。 イ) 生息環境の整備 公共支援事業を活用し、漁業者50名以上が日出町沖合のアマモ場2haを、1年目に増加した被度をさらに5%以上の保全・拡大に努める。 ウ) 資源保護 漁業者は、大型種苗の放流に合わせた禁漁区・禁漁期間を定着させる。 また、漁業者が海岸の漂流・漂着物の処理を行い、地域資源の維持・回復を図る。 3) 水産資源の増殖 次の取組を行い、水産資源の増大を目指す。 ア) 種苗放流 漁協及び日出町が協力してクルマエビ25万尾、ガザミ5万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。 また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む。 イ) 生息環境の整備 漁業者が日出町沖合で海底耕耘を行い、環境改善を図り、漁獲量の向上を図る。 ウ) 資源保護 漁協は、ひじき等の藻類について根からの採取を控えるよう漁業者に周知し、資源の減少を防ぐ。 4) カキ養殖の取組 漁業者は引き続きカキの一般販売を実施する。
漁業コスト削減のための取組	漁業者は、減速操行や船底の定期清掃を徹底することで、燃油消費量を削減する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保・育成 漁業者及び漁協は、漁業就業支援フェアへの参加により新規漁業者の確保、若手漁業者の育成に取り組む。 (2) 市場感謝祭などの集客イベント 漁業者、仲買業者及び行政の三者協議を行い、市場感謝祭などの集客イベントを開催する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

3 年目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比） 9. 8 %

漁業収入向上のための取組	1) 朝市の活用 三者と関係業者は「ホテルと朝市を往復する漁船クルージング」、「町内観光施設と朝市を結ぶツアー」といったイベントを開催し、市場の集客を増やすとともに、クルージングやツアーを漁業者が行い、日当や備船料を受領することにより、漁家所得の向上を図る。 ア) 料理教室 漁業者は小中学校保護者や一般人を対象にした料理教室を年 5 回以上実施するとともに、今後の回数増加について検討する。 イ) 加工品販売 漁業者は協力者を増やして月 6 回、魚介類の一次加工品を朝市で販売し、魚食普及とリピーターの確保を行い、平日の集客も伸ばすとともに、今後の回数増加について検討する。 また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。 ウ) サービス向上 三者は朝市、イベントの来客者を対象にアンケート等を実施し、アイデアを得ると共に、取組内容を検討する。また、遊漁船業の案内を開始し、年間 30 人の増加に努める。 これらの取組により、朝市への集客を基準年比 12 人／日増加させる。 2) マコガレイ資源の増大 日出町だけでなく近隣の市町村や漁業者とも協力して、次の取組の規模を拡大し、マコガレイの資源増大に取り組む。 ア) 大型種苗 種苗放流効果を高めるため 10cm 以上を目標にマコガレイを中間育成し、6,000 尾の放流を行い、漁獲量の向上を図る。 イ) 生息環境の整備 公的支援事業を活用し、日出町沖合のアマモ場を、2 年目までの約 60 % の被度をさらに 5 % 以上の増加に取り組む。 ウ) 資源保護 漁業者は、大型種苗の放流に合わせた禁漁区・禁漁期間を定着させる。 また、漁業者が海岸の漂流・漂着物の処理を行い、地域資源の維持・回復を図る。 3) 水産資源の増殖 次の取組を行い、水産資源の増大を目指す。 ア) 種苗放流 漁協及び日出町が協力してクルマエビ 25 万尾、ガザミ 5 万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。 また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む。 イ) 生息環境の整備 漁業者は、日出町沿岸の漂流・漂着物処理を行い、環境維持に努める。 ウ) 資源保護 漁協は、ひじき等の藻類について根からの採取を控えるよう漁業者に周知し、資源の減少を防ぐ。 4) カキ養殖の取組 漁業者は引き続きカキの一般販売を実施する。
漁業コスト削減のための取組	漁業者は、減速操行や船底の定期清掃を徹底することで、燃油消費量を削減する。

漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保・育成 漁業者及び漁協は、漁業就業支援フェアへの参加により新規漁業者の確保、若手漁業者の育成に取り組む。 (2) 市場感謝祭などの集客イベント 漁業者、仲買業者及び行政の三者協議を行い、市場感謝祭などの集客イベントを開催する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

4 年目（令和 10 年度） 所得向上率（基準年比） 11.2%

漁業収入向上のための取組	1) 朝市の活用 三者と関係業者は「ホテルと朝市を往復する漁船クルージング」、「町内観光施設と朝市を結ぶツアー」といったイベントを開催し、市場の集客を増やすとともに、クルージングやツアーを漁業者が行い、日当や傭船料を受領することにより、漁家所得の向上を図る。 ア) 料理教室 漁業者は小中学校保護者や一般人を対象にした料理教室を年 5 回実施するとともに、今後の回数増加について検討する。 イ) 加工品販売 漁業者は協力者を増やして月 7 回、魚介類の一次加工品を朝市で販売し、魚食普及とリピーターの確保を行い、平日の集客も伸ばすとともに、今後の回数増加について検討する。 また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。 ウ) サービス向上 町によるHP紹介を継続し、魚介類の消費拡大を推進する。三者は朝市、イベントの来客者にアイデアを得ると共に、取組内容を検討する。また、遊漁船業の案内を開始し、年間 40 人の増加に努める。 これらの取組により、朝市への集客を基準年比 16 人／日増加させる。 2) マコガレイ資源の増大 日出町だけでなく近隣の市町村や漁業者とも協力して、次の取組の規模拡大し、マコガレイの資源増大に取り組む。 ア) 大型種苗 種苗放流効果を高めるため 10cm 以上を目標にマコガレイを中間育成し、8,000 尾の放流を行い、漁獲量の向上を図る。 イ) 生息環境の整備 公的支援事業を活用し、日出町沖合のアマモ場の被度をさらに 5% 以上の増加に取り組む。また、海岸漂着物の回収等を行い、環境を保全する。 ウ) 資源保護 漁業者は、大型種苗の放流に合わせた禁漁区・禁漁期間を定着させる。 また、漁業者が海岸の漂流・漂着物の処理を行い、地域資源の維持・回復を図る。 3) 水産資源の増殖 次の取組を行い、水産資源の増大を目指す。 ア) 種苗放流 漁協及び日出町が協力してクルマエビ 25 万尾、ガザミ 5 万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。 また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに
--------------	---

	卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む。 イ) 生息環境の整備 漁業者は、日出町沖合で海底耕耘を行い、環境改善を図り、漁獲量の向上を図る。 また、漁業者が日出町沿岸の漂流・漂着物処理を行い、環境維持に努める。 ウ) 資源保護 漁協は、ひじき等の藻類について根からの採取を控えるよう漁業者に周知し、資源の減少を防ぐ。 4) カキ養殖の取組 漁業者は引き続きカキの一般販売を実施する。
漁業コスト削減のための取組	漁業者は、減速操行や船底の定期清掃を徹底することで、燃油消費量を削減する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材の確保・育成 漁業者及び漁協は、漁業就業支援フェアへの参加により新規漁業者の確保、若手漁業者の育成に取り組む。 (2) 市場感謝祭などの集客イベント 漁業者、仲買業者及び行政の三者協議を行い、市場感謝祭などの集客イベントを開催する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

5 年目（令和 1 1 年度） 所得向上率（基準年比） 1 2. 5 %

漁業収入向上のための取組	1) 朝市の活用 三者と関係業者は「ホテルと朝市を往復する漁船クルージング」、「町内観光施設と朝市を結ぶツアー」といったイベントを開催し、市場の集客を増やすとともに、クルージングやツアーを漁業者が行い、日当や傭船料を受領することにより、漁家所得の向上を図る。 ア) 料理教室 漁業者は小中学校保護者や一般人を対象にした料理教室を年 5 回実施するとともに、今後の回数増加について検討する。 イ) 加工品販売 漁業者は協力者を増やして月 8 回、魚介類の一次加工品を朝市で販売し、魚食普及とリピーターの確保を行い、平日の集客も伸ばすとともに、今後の回数増加について検討する。 また、町内外のイベントに積極的に参加し、ハモッティー、ハモカツに次ぐ新たな商品を開発し、漁家所得の向上を目指す。 ウ) サービス向上 三者は朝市、イベントの来客者にアイデアを得ると共に、取組内容を検討する。また、遊漁船業の案内を開始し、年間 5 0 人の増加に努める。 これらの取組により、朝市への集客を基準年比 2 0 人／日増加させる。 2) マコガレイ資源の増大 日出町だけでなく近隣の市町村や漁業者とも協力して、次の取組の規模を拡大し、マコガレイの資源増大に取り組む。 ア) 大型種苗 種苗放流効果を高めるため 10 c m サイズまでマコガレイを中間育成し、10, 000 尾の放流を行い、漁獲量の向上を図る。
--------------	---

	イ) 生息環境の整備 公的支援事業を活用し、日出町沖合のアマモ場の被度をさらに５％以上の増加に取り組む。また、海岸漂着物の回収等を行い、環境を保全する。 ウ) 資源保護 漁業者は、大型種苗の放流に合わせた禁漁区・禁漁期間を定着させる。 また、漁業者が海岸の漂流・漂着物の処理を行い、地域資源の維持・回復を図る。 3) 水産資源の増殖 次の取組を行い、水産資源の増大を目指す。 ア) 種苗放流 漁協及び日出町が協力してクルマエビ２５万尾、ガザミ５万尾の種苗を購入し、放流を行い、漁獲量の向上を図る。 また、ナマコについては、漁協及び漁業者と行政が協力して親ナマコに卵を産ませ、稚ナマコまで育成をして放流する種苗生産に取り組む イ) 生息環境の整備 漁業者は、日出町沿岸の漂流・漂着物処理を行い、環境維持に努める。 ウ) 資源保護 漁協は、ひじき等の藻類について根からの採取を控えるよう漁業者に周知し、資源の減少を防ぐ。 4) カキ養殖の取組 漁業者は引き続きカキの一般販売を実施する。
漁業コスト削減のための取組	漁業者は、減速操行や船底の定期清掃を徹底することで、燃油消費量を削減する。
漁村の活性化のための取組	(１) 漁業人材の確保・育成 漁業者及び漁協は、漁業就業支援フェアへの参加により新規漁業者の確保、若手漁業者の育成に取り組む。 (２) 市場感謝祭などの集客イベント 漁業者、仲買業者及び行政の三者協議を行い、市場感謝祭などの集客イベントを開催する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

(５) 関係機関との連携

・朝市の活性化のため、仲買業者、観光関係者や町内外の宿泊施設等と連携する。

(６) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プラン達成のために活用する支援措置等の実績報告等を利用して、取組の遂行状況を漁業者及び漁協と行政で協議、評価・分析等を実施する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

市場で販売されるマコガレイ 漁獲量の向上	基準年	令和1-5年度 5中3平均：	0.7	トン（単位）
	目標年	令和11年度：	1.2	トン（単位）

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

新規就業者の継続的な確保	基準年	令和元年度～ 令和5年度：	延べ	7（人）
	目標年	令和7年度～ 令和11年度：	延べ	10（人）

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

① 所得向上の取組に係る成果目標 マコガレイ資源増大の取組により、マコガレイを1年目では、2,000尾放流し、5年目では、10,000尾放流することとしている。放流数に占める水揚量を10%程度と仮定すると5年目では、1,000尾の漁獲向上が見込まれ、1尾当たりの重量は、平均して500gであるため、5年間で漁獲量が基準年から0.5トン向上させることを目標とする。
② 漁村活性化の取組に係る成果目標 本地区において、令和元年度～令和5年度新規就業者数は延べ7人であった。漁業人材の確保・育成の取組により、令和7年度～令和11年度の5年間に於いて、新規就業者を延べ10人確保することを目指す。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	アマモ場の保全・拡大、漂流・漂着物の回収・処理